

演題：Eichiner B3 欠損にパーシャルデンチャーによるフルマウスリコンストラクションを行った 1 症例

演者：添島賢一

日時：2014 年 2 月 25 日

keywords

1. Eichiner B3 欠損
2. 部分床義歯

近年の条件の悪い欠損症例への対応は、効果的にインプラントを用いる事により、機能の向上や予知性を高める手法が多く用いられている。

しかしながら、患者の諸々の条件でインプラントを用いる事ができずに、予後に不安を残す対応をせざるを得ない場合も少なくない。

今回、Eichner B1 の欠損歯列の患者に対し、インプラント治療を拒否されたためパーシャルデンチャーを用い、包括的な治療を行ったケースについて発表させていただきます。

患者の概要； 初診日 2012 年 3 月 2 日、58 歳女性

右上 1 番の破折を主訴に来院した。患者は 7 年前の来院以来 1 度も歯科を受診しておらず、ほとんどすべての修復物の 2 次カリエスが認められた。歯周基本治療、歯内療法、保存不可能歯の抜歯等を行い、患者の希望と、咬合平面の是正を行う目的で上顎より補綴治療を行った後に下顎を補綴した。その後、1~2 ヶ月に一回のメンテナンスに移行した。しかし、診査・診断の甘さと補綴設計の不備によるトラブルがすでに出始めており、今後の対応を迫られている。

全顎治療を行う上で、診査・診断、治療計画が不十分で早期にトラブルを抱えてしまった結果に深く反省するとともに、今後の臨床に生かしていきたいと考えます。

諸先生方のご指導ご鞭撻等いただければ幸いです。